

# ユーゴスラビア空爆に関する決議

選挙で選出、あるいは任ぜられ公職についた都市、及び国際自治体組織の代表者が、ハーグ平和アピール会議に集い、平和と人権に対するその責任について考えるにあたり、

偉大なる都市ハーグは、歴史的に平和都市として世界に認められ、正義、人権、民主的対話と国際法を司る都市として認められており、

ここに集うわれわれは、何十万人もの人々が家を追われ、多くの死者を出しているユーゴスラビア、コソボ、アルバニア、マケドニア、モンテネグロ、その周辺地域をはじめ、戦争と暴力に苦悩する無実の一般民が後を絶たない現状を深く憂慮するものであり、

各地において、人権の侵害や少数民族・人種、宗教、文化の少数グループが抑圧されていることを強く非難するものであり、

ユーゴスラビアにおける戦争の最も重要な観点は、殺戮をやめ、空爆を中止し、難民を帰宅させ、生活を建て直す資源を供給することにあると認識しており、

国際連合の威信を傷つけ、国際法の権威を失墜させる国際軍事勢力を拒否するものであり、

ユーゴスラビア紛争の当事者による大量破壊兵器の継続的保有、さらに同地域における戦争がエスカレートし、各地の都市や市街地の存在を脅かす恐れがきわめて大きいことを認識することから、

われわれは以下を決議するものである。

NATOによるユーゴスラビア空爆の即時停止を求め、コソボ地域のセルビア人勢力とコソボ解放軍に停戦を呼びかけ、

難民が健康を回復し、幸せな暮らしを取り戻し、バルカン地域の破綻経済の再建に必要なとされる資源の発掘と、平和維持の取り決めなどを話し合う政治の場での交渉の即時再開を求めるとともに、国際連合、北大西洋条約機構、米国、英国、ユーゴスラビア共和国、その他、軍事行動に関与した当事国が費用を拠出することを要求し、

セルビア、ユーゴスラビア連邦の主権国家としての利害を考慮し、さらにコソボ地域内の先住民すべての利害を配慮し、公平かつ平和的解決を達成する唯一の手段として、国連等の権威ある中立機関が活動することを確認し、

国際連合、その他の国際民間支援組織の実施する人道支援が、セルビア、コソボ両地域の難民に即時提供されることを促し、

平和の達成に取り組む地方自治体の首長に、市民に対して、国際法と規範を尊重することをあらためて訴え、破壊と人間の苦悩をもたらす武力の行使や威嚇を禁止する交渉の実現の必要性を訴え、要請することを求め、

すべての人民の平和への取り組みに向けた決意において、下記に署名し、この決議文を以下の組織に提出することに合意する。

]国連事務総長

]国連安全保障理事会常任理事国

]北大西洋条約機構(NATO)事務総長

]北大西洋条約機構(NATO)全加盟国元首

]セルビア大統領

]国際地方自治体組織全メンバー

]市町村の当該地方自治機関

1999年5月14日